

わたしたちの難民問題

2018 vol.19



紛争や迫害を逃れ、家を追われた人が、世界各地に 7,000 万人いるといわれています。日本にもさまざまな国から難民が庇護を求めて来ています。支援者、研究者のお話を聞いて、わたしたちにできることは何か、一緒に考えてみませんか。

時間： 18:30～20:00

場所： 神戸市青少年会館 研修室

定員： 40名

神戸市中央区雲井通 5-1-2 神戸市勤労会館 5階

参加費： 無料

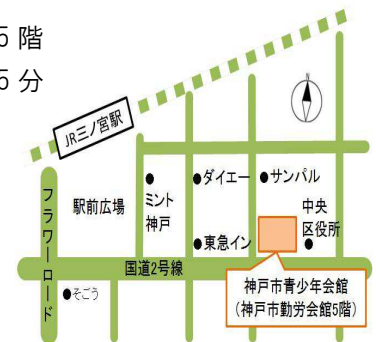
地下鉄・JR・阪急・阪神 各三宮駅から徒歩 5分

要予約 お名前、ご連絡先、参加希望日をお知らせください。

難民事業本部関西支部 078-361-1700 / kansai@rhq.gr.jp

神戸 YMCA 国際・奉仕センター 078-241-7204 / houshi@kobeymca.org

兵庫県国際交流協会 078-230-3090 / hia-ex-co@net.hyougo-ip.or.jp



11/14 (水) 『日本の難民受け入れ』

中尾 秀一 (アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部)

兵庫県は日本で2番目に多くの難民が暮らす都道府県です。姫路市で始まった定住支援の歴史、インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の受け入れの仕組みと現状について、定住支援に取り組んできた職員よりお話しします。

11/21 (水)

『アフガニスタンの支援活動』

西垣 敬子さん

(元宝塚・アフガニスタン友好協会 代表)

1994年「宝塚・アフガニスタン友好協会」を設立し、同年内戦下の国内避難民キャンプに粉ミルクを届けるために訪問。以後定期的に同国を訪問し、女性と子どもを対象とした支援活動を多岐にわたり続けてこられた西垣さん。昨年3月に活動を一旦終了されましたが、その活動23年間の経験をお話しいただきます。

12/5 (水)

『日本に暮らすラオス定住難民』

乾 美紀さん

(兵庫県立大学 准教授)

兵庫県内でベトナム難民に次いで多いのがラオス難民。1979年以降の日本定住の背景、難民コミュニティの現状、今後の課題について、これまで研究者、また支援者として関わってこられた乾さんよりお話しいただき、今どのような支援が必要かを考えます。

主催：(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部 ・ (公財)神戸YMCA
(公財)兵庫県国際交流協会 ・ 日本国際連合協会兵庫県本部